

# 自己紹介 毒ガス島歴史研究所 山内正之

大久野島の毒ガス加害・被害の事実を伝える活動をしています。



# 近代以降の大久野島の歴史の概説

## 歴史年表

- 1899年 芸予要塞法施行、忠海町に芸予重砲大隊本部設置
- 1900年 忠海冠崎に砲台設置 芸予要塞司令部設置
- 1901年 芸予要塞法に基づき大久野島砲台（南部・中部・北部）設置 (写真①)
- 1904年 日露戦争旅順攻撃に大久野島砲台の28センチ砲を運び使用
- 1918年 忠海町に電信独立大隊設立
- 1924年 芸予要塞及び要塞司令部廃止、広島陸軍兵器支廠忠海兵器庫設置
- 1927年 大久野島に陸軍造兵廠火工廠忠海派出所設置
- 1929年 東京第二陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所（毒ガス工場）が開所  
毒ガス製造開始 (写真②)
- 1932年 催涙ガス設備新設
- 1933年 「あか」の製造設備新設、ルイサイト設備新設、青酸ガス設備新設 (写真③)
- 1934年 ドイツ式イペリット設備新設
- 1937年 日中戦争にて毒ガス使用 毒ガス生産量が急増
- 1940年 東京第二陸軍造兵廠忠海製造所に改称
- 1941年 太平洋戦争始まる。毒ガスの生産の最盛期 (写真④)
- 1944年 毒ガス製造中止。筒類や弾薬を製造
- 1945年 風船爆弾の気球製造、空襲に備え毒ガスを近くの島に疎開させる  
8月15日 終戦・秘密厳守のため関係書類焼却、近海へ毒ガスを投棄  
米軍第十軍団大久野島上陸、毒ガス関係者聴取

## 三度、戦争に利用された大久野島

- 1946年 英連邦軍が毒ガスの戦後処理開始、民間会社が処理を請け負う
- 1947年 毒ガス処理作業完了、大久野島を日本政府に返還
- 1950年 米軍が日米安全保障条約により弾薬置き場として接收
- 1953年 朝鮮戦争終了するが、爆弾解体処理場として米軍が利用
- 1956年 米軍が大久野島を返還
- 1963年 大久野島国民休暇村オープン (写真⑤)
- 1971年 陸上自衛隊、旧毒ガス施設爆破
- 1985年 大久野島毒ガス障害者慰霊碑建立
- 1988年 大久野島毒ガス資料館完成
- 1996年 大久野島で残留砒素検出
- 1999年 大久野島で砒素汚染土壌の島外撤去工事終了

参考文献：「忠海の歴史年表」忠海郷土史研究会編。「毒ガスの歴史」村上初一著。「毒ガス」

**日露戦争の時(1902年～1904年)**



三度も戦争  
に使用され  
た島は日本  
では珍しい。

**朝鮮戦争の時(1951年～1956年)**



**第2次世界大戦:毒ガス工場時代(1929年～1945年)**



# 日露戦争の時、芸予要塞が造られ22門の大砲が設置されていた。



(30) 大久野島北部 (おおくのしまほくぶ) 砲台跡



南部探照灯跡



大久野島

## 芸予要塞



(29) 大久野島中部 (おおくのしまちゅうぶ) 砲台跡



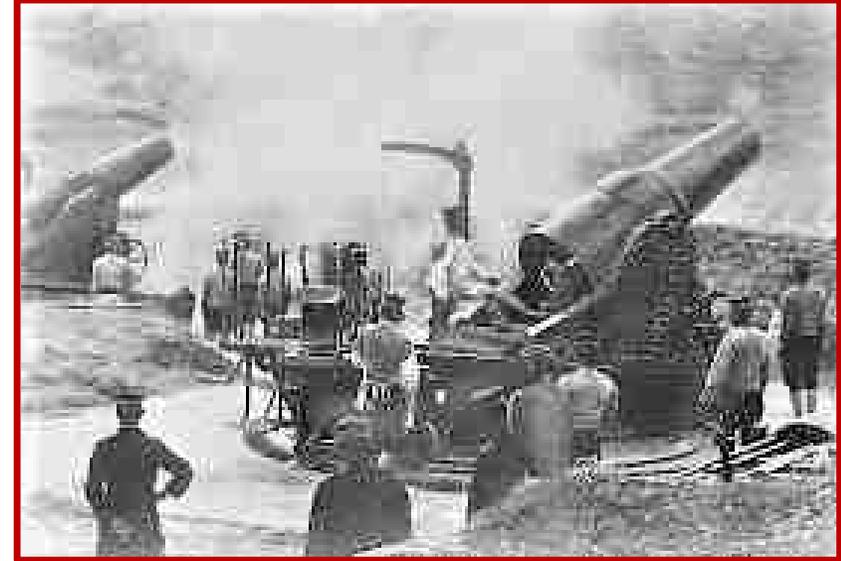
(28) 大久野島南部 (おおくのしまなんぶ) 砲台跡

## 小島



司令塔跡

ピワ窟



日清戦争前は外海に備える国土防衛として、日清戦争後は国土防衛充実の一環として函館、東京湾、舞鶴、由良、鳴門、芸予、広島湾、対馬、下関、佐世保、長崎の11箇所の地域に要塞が配置され、その後、ロシア海軍の侵攻に備えて整備が続けられました。

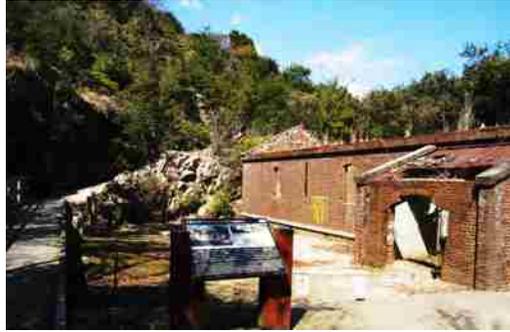
忠海港に芸予要塞司令部と芸予重砲兵大隊本部が置かれ、港の脇に冠崎砲台が設けられました。そして、日露戦争が始まると日本各地の要塞にある大砲30門の中から、18門が遼東半島に送られて旅順攻撃に使用され、大久野島の巨砲も運ばれていきました。芸予要塞は1924年に廃止されましたが、その後は陸軍の大久野島毒ガス製造関連施設として使われました。



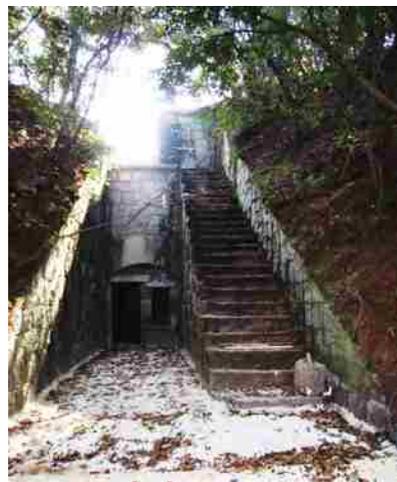
# 大久野島の日露戦争時代の戦争遺跡の一部



棧橋跡



火薬庫跡



南部照明所跡



北部司令塔跡



陸軍石柱



中部砲台兵舎跡



南部砲台跡



南部棧橋跡



南部砲台倉庫跡



北部砲台跡



北部司令塔跡



南部砲台空気口跡



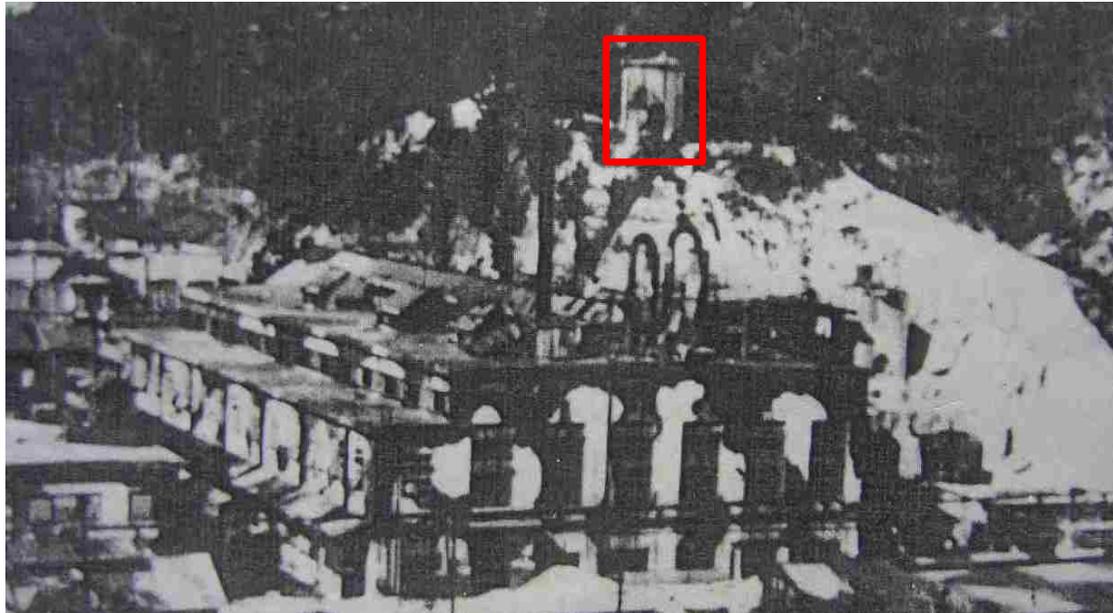
北部砲台倉庫跡

**第二次世界大戦中、毒ガス工場設置、毒ガスを製造した。**



島全体が秘密の  
毒ガス工場だった

大久野島全体が毒ガス工場に関係者  
以外は立ち入ることはできなかった。



現在でも毒ガス工場の海水タンクが残っている



なぜ、大久野島に毒ガス工場が設置されたのだろうか？

東京の新宿にあった陸軍の毒ガス工場が大久野島に移転してきた。

毒ガス工場の秘密が守りやすい。

毒ガス工場で事故が起こっても、周りに住宅がないので被害が少ない。

1929年から大久野島の毒ガス工場で毒ガスの製造が始まりました



# 大久野島で製造された毒ガス剤と毒ガス兵器



赤筒

毒ガス砲弾

毒ガス爆弾

大久野島で製造した毒ガス剤  
イペリット  
ルイサイト  
青酸ガス  
クシャミ性ガス  
催涙ガス

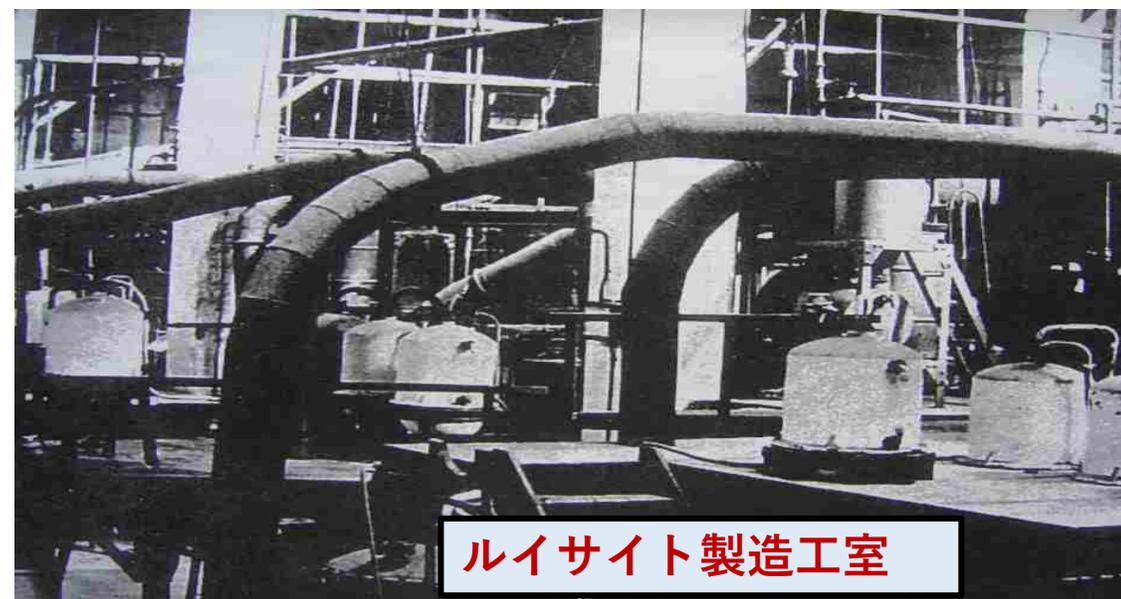
15年間で合計**6616**トンの毒ガス剤を製造した。それは**何千万人も**の人間を**殺戮**できる量だった。

投下弾・迫撃砲弾赤筒など毒ガス兵器も大久野島で生産された

毒ガスは24時間体制で生産され、大変、危険な作業だった。



発煙筒工室

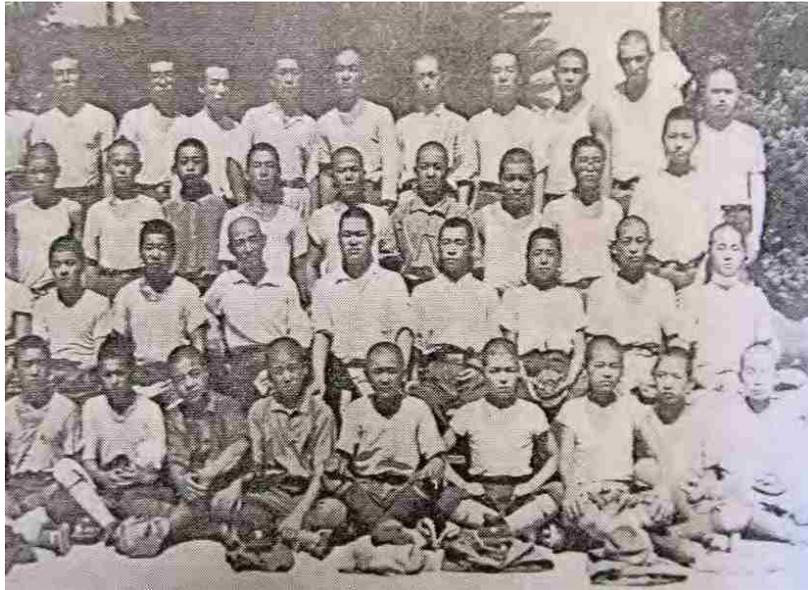


ルイサイト製造工室



危険な作業

敗戦色が濃くなると学徒動員令により子どもたちも動員された。



忠海中学校生徒（14歳）



忠海高等女学校生徒（15歳）



島全体が毒ガスで汚染されていたため、島内どこにいても毒ガス被害を受けた。子どもたちも毒ガス被害を受け、戦後も毒ガス傷害の後遺症で苦しんだ。

危険な建物解体作業



危険な毒ガス缶運び

大久野島で働いた人達は90%毒ガス被害を受けた。

毒ガス傷害は完治しない。  
死ぬまで後遺症で苦しむ。  
現在でも約1300人が苦しんで  
いる。

慢性気管支炎や各種の癌になる人が多い



大久野島で製造された毒ガスが戦争で使用された。



毒ガスは国際条約では使用が禁止されていた。



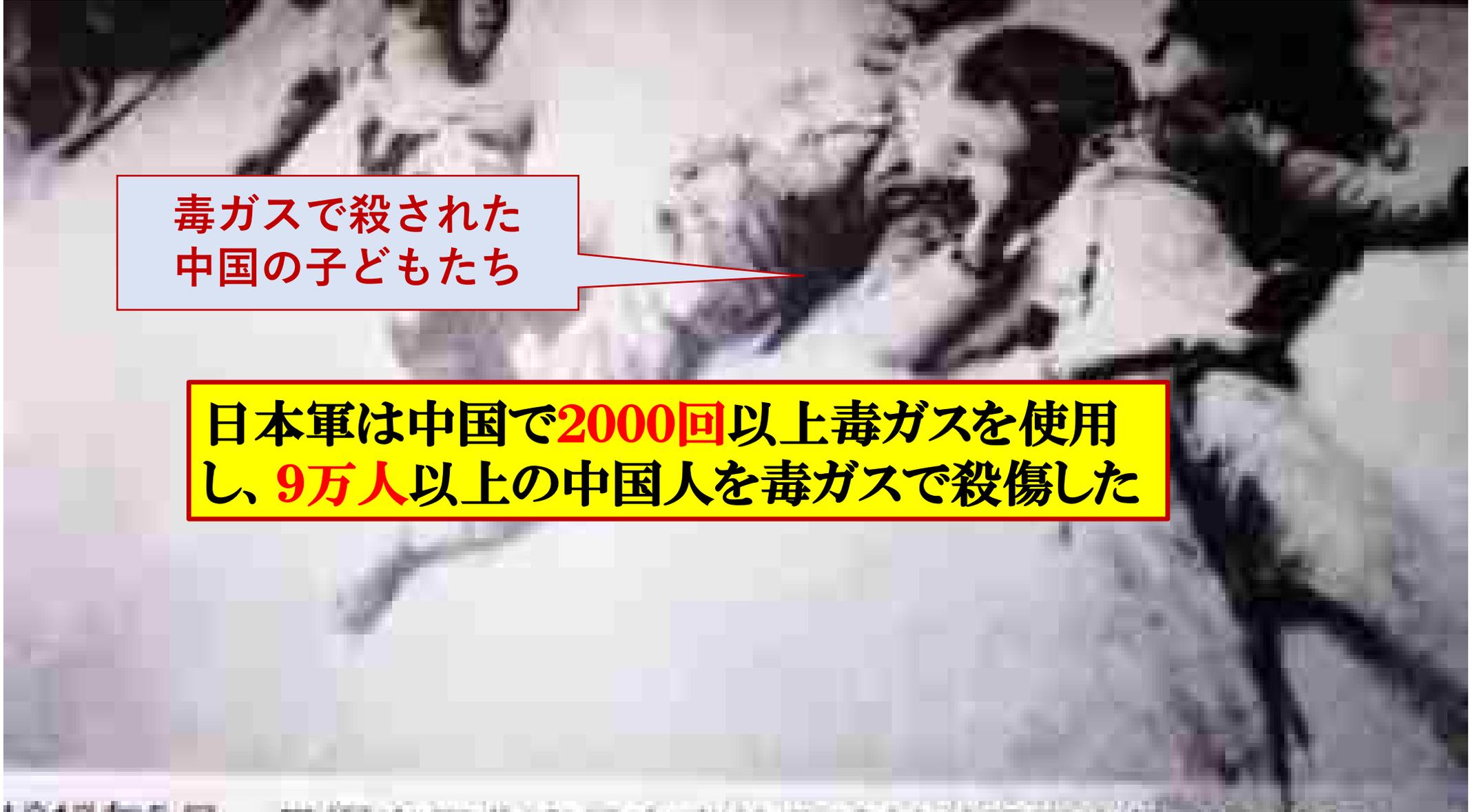
中国の上海市内で毒ガを使用している日本軍  
(1937年上海事変) ス

1939年湖北省の村を毒ガスで攻撃する日本軍

1942年5月日本軍は**河北省北垣村**で毒ガスを地下道に投げ込み、  
地下に避難していた**村民800人以上を虐殺した。**

毒ガスで殺された  
中国の子どもたち

日本軍は中国で**2000回**以上毒ガスを使用  
し、**9万人**以上の中国人を毒ガスで殺傷した



米国が日本の毒ガス戦争の事実を歴史の闇に隠した。

アメリカが保有する毒ガス兵器が使用し難くなりアメリカの国益に反するという理由からだった。

1946年

極東国際軍事裁判（東京裁判）

# 毒ガス工場時代の遺跡の一部



発電場跡



煙道口跡



殉職碑



長浦毒ガス貯蔵庫跡



毒ガス研究室跡



毒ガス貯蔵庫跡



幹部用防空壕跡



検査工室跡



境界のコンクリート柵



海水タンク跡



医務室跡水道管



北部砲台跡毒ガス缶置き場



通信壕跡

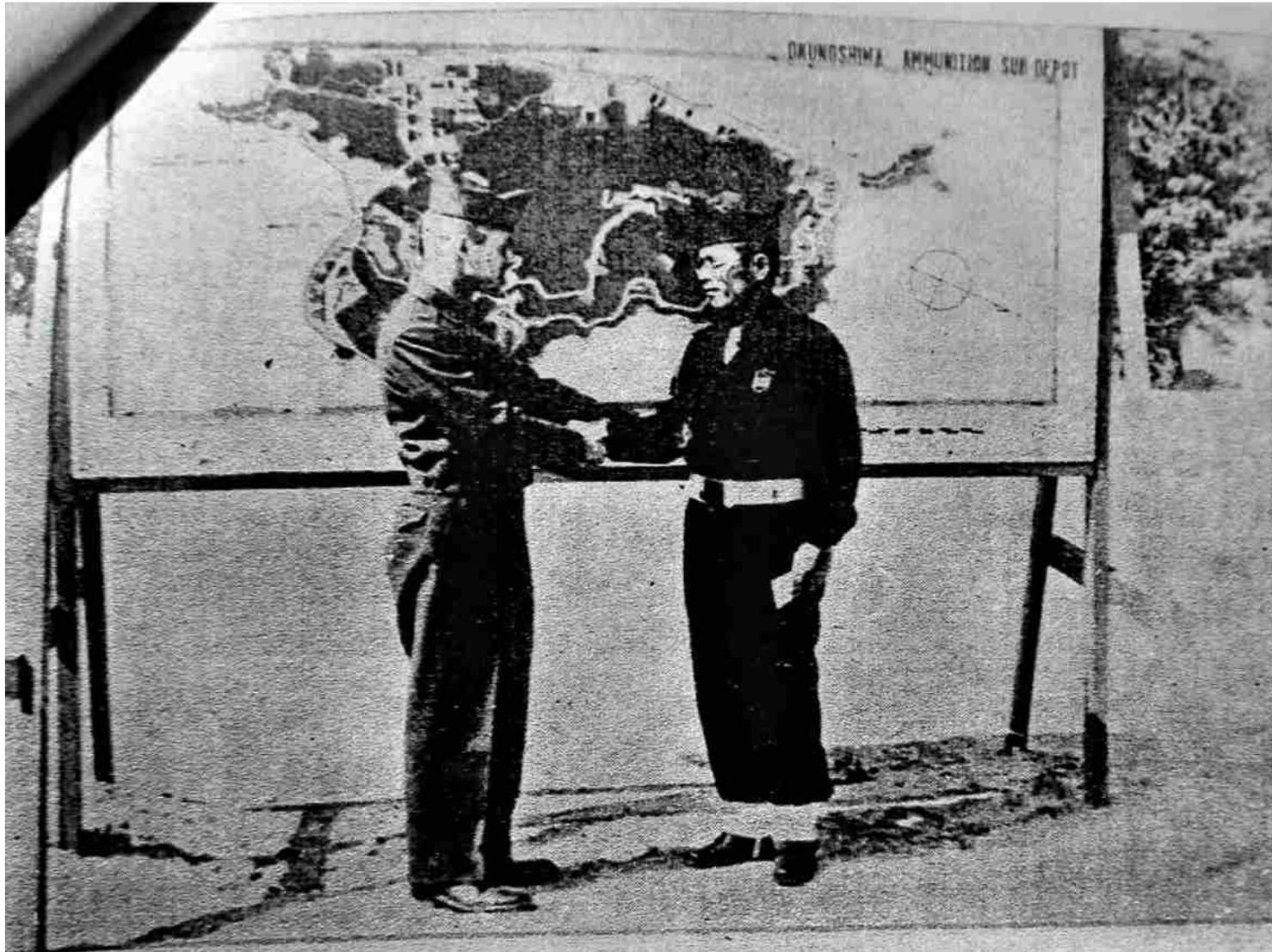


毒ガス製造陶磁器



毒ガス缶置き場跡

# 朝鮮戦争の時(1951年~1956年)米軍が弾薬置き場・弾薬処理場として使用。



朝鮮戦争のため  
アメリカ軍の弾  
薬庫となる

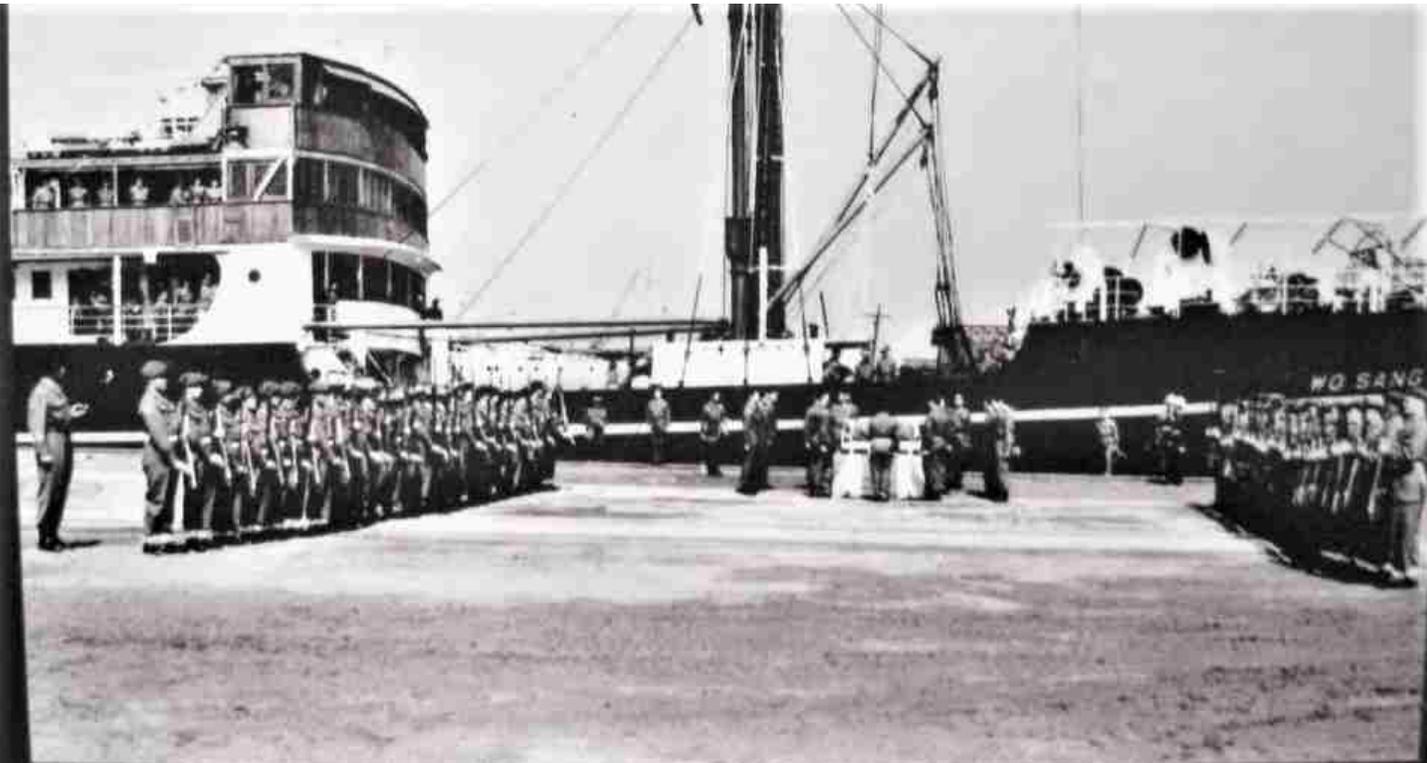
毒ガス処理を終った  
大久野島は一たんアメ  
リカ軍から日本政府に  
返還され、1950年には  
瀬戸内海国立公園区域  
に編入したが、この年  
朝鮮戦争がおこり、ア  
メリカ軍はこの島を弾  
薬などの置き場として  
再び接收使用した。

(下) 作業 日本人作業員  
による弾丸運搬の風景であ  
る 火薬充填なども行った

(上) 弾薬庫配置図前で アメリカ  
軍憲兵と日本人補助憲兵の握手



朝鮮戦争の時、呉は国連軍の海軍基地だった。



朝鮮戦争犠牲者の棺を出迎えるBCFK兵士(呉港)  
昭和30年5月21日 <R.Phelps氏 提供>

大久野島に保管した弾薬を呉港に運び、軍艦や空母に積み込んで朝鮮に運び、朝鮮戦争で使用した。



日本人作業員による弾薬運搬風景

# 朝鮮戦争時、弾薬の保管に使われた遺跡の一部



**MAG**の文字も貴重な戦争遺跡です。



**MAG**の文字は弾薬庫という意味（米軍が描いた）



# 1963年国民休暇村の開設



大久野島は瀬戸内海国立公園のレジャーランドとしてにぎわった。

国民宿舎「くのしま荘」



展望台へのリフト



山頂の展望室



ロッジ

ロッジ

大久野島の戦争の歴史から学び、過ちを再び繰り返してはならない。



終

